有限会社 ナスカ

様式３−２　技術提案書 「カトリック仙台司教区郡山教会司祭館・信徒館新築計画委託業務」基本・実施設計業務 公募型プロポーザル　　受付番号

人々が出会う場をつくる - 地域に開かれた [前庭] と奥性のある信徒の [中庭]-

①歴史を尊重した教会建築

前庭・中庭を囲み聖堂に寄り添う信徒館・司祭館

カトリック仙台司教区の中でも信者数が多く、地域に根ざした歴史のある郡山教会。
今回建て替わる信徒館では、今までと同様に聖書等の勉強会、茶話会、バザー、季節ごとのイベントなどの集会場として、郡山教区の信徒のみならず巡礼者や、地域の方々に開かれた教会の一翼を担います。現在、聖堂のエントランスピロティに丹念に育てられた植物たちが人々を迎え入れるように、新たに整備される前庭が奥に続く中庭へと誘い、ここが都市の広場、心のオアシスとして人と人が出会う場となることを目指します。そして、永年この地域の風景を担ってきた聖堂のおおらかで柔らかに包み込むような切妻屋根と鐘楼に寄り添うような信徒館の佇まいを提案します。

②機能性の高い教会建築

わかりやすい信徒館とプライバシーに配慮した司祭館

聖堂と信徒館は信者や司祭が行き来しやすい配置とします。聖堂と信徒館の床レベルは同じとし、屋根のついた回廊で繋ぎ、雨の日も段差なく、傘をささずに行き来ができます。談話室を兼ねた玄関ホールが来訪者を迎え入れ、そこに面して事務室やトイレもわかりやすい位置に配置し、集会室や中庭へと自然に誘われます。現在、トイレや事務室が聖堂から遠く、高齢者や子供たちに不便をかけているようです。それを解消すべく、できるだけ近接するように心掛けました。
司祭館は北側駐車場から直接２階に上がれるように計画。司祭様達の居室は２階に計画し、テラスは外部から覗かれにくい断面形状としプライバシーを確保します。中庭対岸の聖堂内陣脇へ直接入ることも、信徒館を通り抜けることも可能です。将来 EV を設置可能なスペースも確保しました。

③多様性を受け入れ、交流を考慮した教会建築

信徒に安心した居場所を提供する中庭や信徒館

前庭は県道角地のオアシスとして開かれた教会を標榜します。奥には集会室が面した静謐な中庭を配置し、軒下を介して内外一体となったイベントや交流の場に利用出来ます。内外あちこちに信徒が安心して滞在や活動できる居場所をつくります。キッチンも古より異文化・多様性を知る重要な交流の場でした。信徒館中心の集会室に面し広々と配置し、ここでは作業台を囲んで様々な会話が弾むような計画としました。

④パッシブデザインを考慮した教会建築

長寿命化を図るシンプルな断面計画

外形をシンプルにすることで外装の耐久性や断熱性能を高めます。
深い軒下を東西に確保し、自然採光、自然通風、夏の日射遮蔽、冬のヒートゲインを旨とします。天井の高い集会室は上部から温められた空気を抜くことで重力換気も行うなど、できるだけ電力を使わない建築を目指します。

⑤地域に根差した教会の実現のための取り組み体制の提案

サテライトオフィスを拠点に愛される建築を目指す

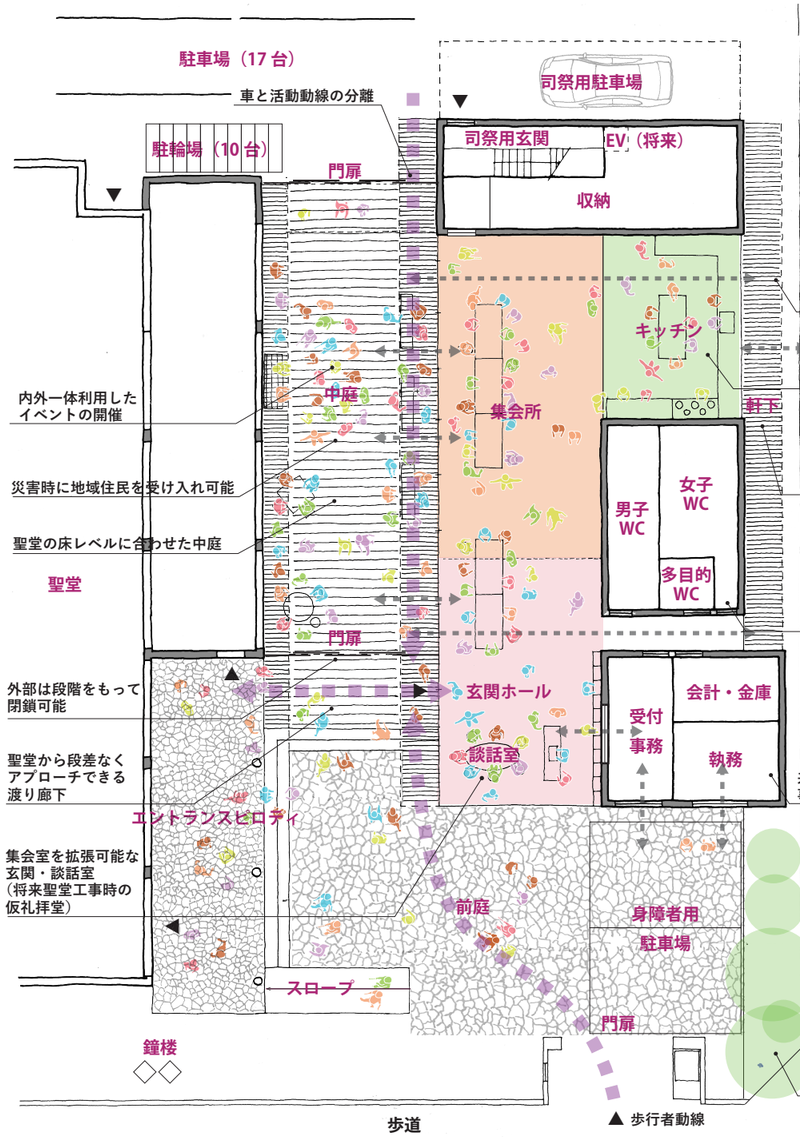
私たちは、どのプロジェクトも設計中・監理中を通して何度でも足を運び、発注者や利用者と協議を重ねることを旨としています。建設委員会メンバーとの打ち合わせのみならず、多くの利用者の方々とコミュニケーションを図るために模型や図面を囲んでワークショップを行うことも必要に応じて行います。敷地からほど近くにサテライトオフィスを持つ NPO 組織にも参加しており、そこを拠点に地域の方々に末永く愛される建築をつくります。

⑥その他本施設の計画において特に重要だと考える提案

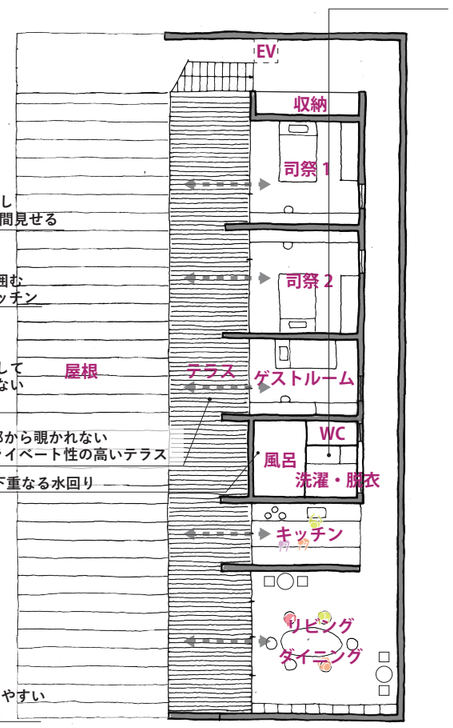
信徒に寄り添う改修工事とコストコントロール

65 年に一度の一大プロジェクトです。今回解体する建築は、1978 年宮城県沖地震、2011 年東日本大震災、2021 年福島県沖地震など数多の受難をくぐり抜けてきた建物です。新棟の着工にあたり解体するときは信徒の皆さんと共に感謝の気持ちでお見送りしたいです。そして、聖堂を使いながら工事を行うため、信徒の安全を守り、動線をしっかりと分けられるような配置としました。その後に聖堂を工事する時には、今回計画する集会室と談話室を一体利用することで 100 名着座の仮聖堂となります。
なお、更に重要なことは昨今の社会情勢の中でコストコントロールを行うことだと思います。

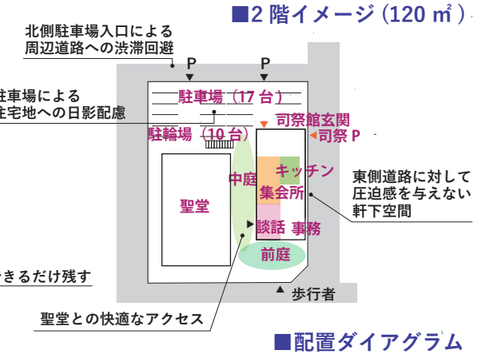
■概算予算書

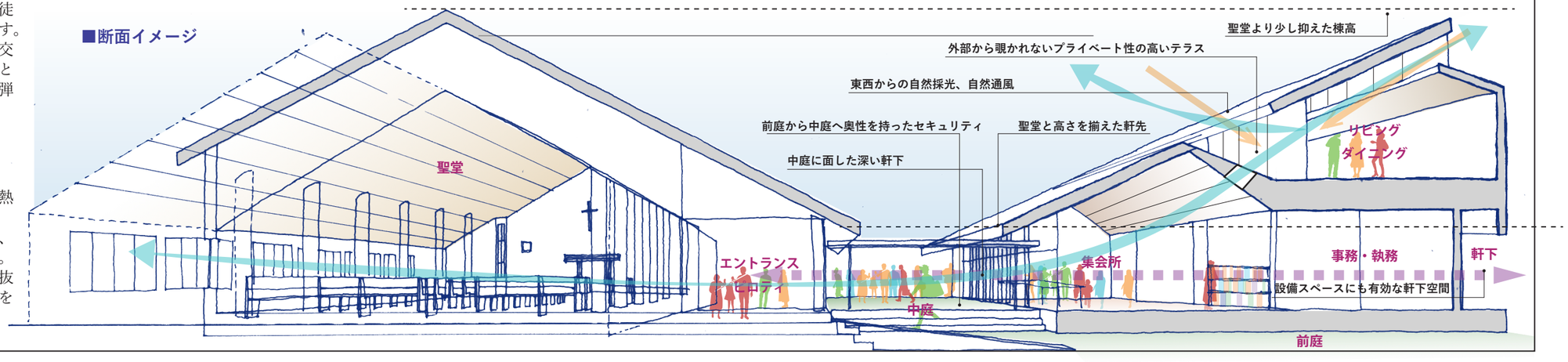


■１階イメージ（230 ㎡）



■２階イメージ（120 ㎡）



■配置ダイアグラム

■断面イメージ